



【 資料 1 】

令和3年度 東区まちづくり懇話会

書面開催結果まとめ



第1回開催	令和3年（2021年） 8月16日 ～ 令和3年（2021年） 8月31日	… 2～12
第2回開催	令和3年（2021年） 10月 8日 ～ 令和3年（2021年） 10月18日	… 13～22
第3回開催	令和4年（2022年） 3月 4日 ～ 令和4年（2022年） 3月18日	… 22～31



第1回 東区まちづくり懇話会 書面開催

○開催期間 令和3年(2021年)8月16日
～ 令和3年(2021年)8月31日

○議題Ⅰ 令和3年度東区のまちづくりの取組に対する御意見・御提案

○議題2 新型コロナウイルス感染症の影響による貴団体の活動等への影響やそれに対する取組事例

○議題3 ウィズ(with)コロナにおけるまちづくりについて御意見・御提案

【問1】これまで御覧いただいた【資料1】～【資料3】等を踏まえ、令和3年度東区のまちづくりの取組【資料4】について、御意見がございましたら御記入ください。

No.	意見内容	分類	事業
1	限られた予算では、廃止統合も仕方ないと思います。	全体	事業全体に対する意見
2	活動内容も興味深いものが多いが、みんなに認知されていない。自治会脱会をする人が近年多い中、地域活動とは無縁で生活する人も多く、せっかくの活動が勿体ないように思われる。地域の方にお知らせできるツールを増やすことができればと感じた。	全体	事業全体に対する意見
3	コロナ禍の中、ICTの活用は必要だが、高齢者や地域住民、介護保険事業者等従事者ですら、活用には消極的である。（自分も最低限使用できるのみ）誰でも簡単に操作ができ、身近な道具としてのICT講座の実施を推奨する。講師として企業へ委託したり、簡単な操作から繰り返し講座を行うことが大事である。スマホのLINE活用等で閉じこもり予防や介護予防のため自宅でできる運動の推進（オンラインで運動の推進、eスポーツの普及など）が必要である。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
4	ICT化の活用では情報セキュリティ対策（時に自治会が保有する個人情報の取扱い等）、情報を安全に管理するためのマニュアル整備の支援を望みます。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
5	行政と校区自治協議会長との連絡網はすでにできているが、その後の連絡網がうまくいっていないのが実態。今後は、範囲を拡大し、各自治会長・東区役所職員・地域担当職員間でのオンライン会議などを実践し、情報共有を図る体制の構築を要望します。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
6	自治会役員を対象とした研修会や講座は、単なる勉強会にとどまれば効果は限定的です。むしろ実例を教材としたワークショップ形式とすることで、実用性を高めることができると考えます。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
7	コミセンにフリーWi-Fiが設置された。新しい生活様式スタイルの活用に今後期待する。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
8	東区地域コミセンLINEが便利で役に立っている。 当コミセンでも事務管理員とのグループラインを作り情報共有をしている。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
9	年配者にPCは難しい。自分が現役のころは部下に指示すればよかった。現在、自分でとなると・・・反省しているが、その当時民間会社はそれで済んでいた。どこの会長も自治会長も防犯協会でも年配者が多く、メールでも難しい。職業柄も出る。それでも、現代は違い出来る範囲で少しずつ 前へ進めるべきと思う。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
10	私たちの町内は役員の連絡にはグループラインを利用しています。時間と経費の節約にもなり、特に行事の時や予定変更など、すごく役立っています。今は高齢者の方もスマホをお持ちなので、設定してあげて、使い方をお教えすれば、使えるのではないかと思います。	ICT	①地域の情報ネットワーク活性化支援事業
11	自然環境魅力向上事業の中に案内板の設置とありますが、既存案内板の腐敗等による修復も必要な所があります。	環境	⑯自然環境魅力向上事業
12	令和3年度の案内板の製作・設置の計画を知りたいです。	環境	⑯自然環境魅力向上事業
13	託麻三山には竹林が多く存在しています。我々も竹林の整備を年計画の中に取り入れ活動していますが、整備すべき場所が共有できていないと思います。整理の一環として、たけのこ堀の企画等も良いと思います。	環境	⑯自然環境魅力向上事業

【問1】これまで御覧いただいた【資料1】～【資料3】等を踏まえ、令和3年度東区のまちづくりの取組【資料4】について、御意見がございましたら御記入ください。

No.	意見内容	分類	事業
14	東区には、託麻三山以上に自然の宝庫といえる江津湖があります。この山と湖の両方を活かして、全国都市緑化フェアを契機に魅力向上策を。お金＝予算よりも新鮮なアイデアが必要です。	環境	⑯自然環境魅力向上事業
15	今こそ乳幼児に対する食育ニーズは高いでしょう。いっそ貧困や育児困難の親を対象に、子どもの年齢月齢に合せた食材を持って民生委員などが家庭訪問するという試みは有用かと思います。	子育て	⑬食でつながる地域の環事業
16	この事業は、⑬の事業と一本化して活動の実践化を進める取り組みは如何でしょう。	子育て	⑭子育て支援ネットワーク活性化事業
17	コロナ時代に対応できる会議開催の手法として、WEB会議とする必要性は高いでしょう。	懇話会	⑱まちづくり懇話会開催経費
18	この補助金の対象を拡大できないでしょうか。例えば、自治会等でWEB会議システムを導入する際、年間数万円のネット接続費がネックとなるでしょう。このような経費は自治振興補助の範疇とするべきかもしれませんが、地域コミュニティにおけるネット接続の支援方策があれば何よりです。	地域活動	②東区地域コミュニティづくり支援補助金
19	私たちの町内もコミュニティ支援金をいただいて、行事に有効に使うことができました。活性化のためにも継続していただきたいです。	地域活動	②東区地域コミュニティづくり支援補助金
20	コロナウイルスが終息せず人を集める行事が開催困難な中で、この事業は見直しが必要なのでしょう。	地域活動	③東区民文化スポーツ交流事業
21	秋津まちづくりセンターのロビーを市民（非営利活動）に活用させるアイデアは、悪くないのですが。	地域活動	④あさひばりビング活用支援事業
22	世代間交流に地域交流スペースを用いる案は良いと思います。支援が必要な方のニーズを把握する必要がある、ニーズに合わせたボランティアを結びつけるのがマッチングとして必要。	地域活動	④あさひばりビング活用支援事業
23	町内自治会や各種団体が地域活動を考える際、乳幼児・乳幼児を持つ若い親、または妊産婦の存在が視野に入っていないと感じている。自治協構成員が年齢を重ねた方が多いからなのか、自治協の中にその存在を意識してもらう必要を思う。	地域活動	⑤地域活動理解促進事業
24	多くの自治会や子ども会で参加が減る傾向にありますが、地域活動を損得勘定で捉えたり、人的交流を負担に感じたりする人があり、これに対して説得力あるアプローチ手法が必要です。	地域活動	⑤地域活動理解促進事業
25	コロナ禍が去らぬ今、状況を逆手に取って、目的の類似した事業群を再編する工夫ができませんか。	地域活動	⑥サロン活動支援事業
26	コロナ禍の今、市民が在宅で健康を維持できるよう、推進員の活動分野を開拓する必要があります。	福祉・健康	⑫東区健康まちづくり推進員支援事業
27	自助・共助と合わせた近助（となり近所の助け合い）の推進。 地域ごとに「近助の精神の意識啓発推進運動」を展開し、皆が理解し意識が高まれば地域の活性化も生まれ安全・あんしんなまちづくりの礎となる。 「近所の精神」には助けるほうの理解と協力だけではなく、助けられる側（本人と共にその家族）の理解と協力が不可欠。 「ほどよい距離感」で隣人にも関心をもつことが大切。	防災	⑨防災・減災啓発事業

【問1】これまで御覧いただいた【資料1】～【資料3】等を踏まえ、令和3年度東区のまちづくりの取組【資料4】について、御意見がございましたら御記入ください。

No.	意見内容	分類	事業
28	防災講座の開催。 コロナ禍でも自然災害は待ってくれない。区の防災担当が中心となり、各自治会へ出向いて防災講座が開催されるように積極的に支援して欲しい。 コロナ禍での総合防災訓練に代わる、内閣府の警戒レベルに関する映像資料等を活用した防災講座等、座学を中心とする勉強会を遂行し、住民一人ひとりの防災意識を高め継続させる必要がある。子育て世代向けの防災啓発映像はぜひ活用したい。	防災	⑨防災・減災啓発事業
29	妊産婦や乳幼児を災害時支援対象として市民の意識向上を期す取り組みは、大変結構と思います。	防災	⑨防災・減災啓発事業
30	校区内にある福祉関係の事業所と協力し、障がい者や高齢者の方との訓練を一緒に行う機会を広げていくことで、避難所運営の強化及び避難者受け入れのシミュレーション訓練の強化につなげていけないか？ 今も実施されているが、機会を多くしていくことや協力機関を広げていくことは今後も大切だと感じているため。	防災	⑩地域防災合同訓練事業
31	地域防災力の向上は、校区防災連絡会等への直接的な防災活動の支援の他に、暮らしの中で実施する活動に少し防災のエッセンスを加えるだけで飛躍的に高まると思います（多くの人に浸透する）。感染症対策で財源確保が困難な中、効率の良い事業実施が求められると思いますので、例えば直接防災を検討しない事業において防災エッセンスの追加を検討するだけで「防災・減災啓発事業」の代替えにすること等も一案かと思います（防災エッセンスを検討することがすでに「防災・減災啓発事業」の一部なのかもしれませんが）。 また、なかなか地域での活動が困難な状況で効率的な防災活動を実施するためには、地域の弱点を明確にし検討することが望ましいです。そのためには、各地区（校区単位）での防災的な地域特性を区の方で検討しておく（地域特性は地域住民だけで検討するのは困難な可能性・これを検討できるリーダーのような人を作れば地域防災力は飛躍的に向上すると思います）、それを示しながら地区で検討すべき内容を整理し伝えることで効率的な防災活動につなげることができかなと思います	防災	⑩地域防災合同訓練事業
32	校区防災連絡会、避難所運営委員会の開催が急務。（参加者の人選・検討内容は絞り込んで実施） 活動が先行する東区内の各自治会会長、自主防災クラブ会長など防災関係者が交流できる集いの場を提供し、あるいはオンライン会議により情報交換等を実施し、住民の防災意識の向上と地域全体の災害対応力の強化を図っていただきたい。	防災	⑩地域防災合同訓練事業
33	今後は避難先として自宅避難を選択する方が増えると予想されるため、自宅避難者が心掛ける防災・減災知識を習得するための訓練の実施や情報の提供は必須である。（救援物資の受取方法、避難先・避難者の安否確認、災害情報の伝達手段の確立、被災後の見廻りによる体調管理、心のケアなど、避難支援上の課題等を整理する必要がある。）	防災	⑩地域防災合同訓練事業
34	防災活動の経験から、肝心な避難所の受入機能が脆弱だと実感しています。例えば、避難室の窓に外の視線を遮るブラインドがない、避難者を区切る簡易テントがないなど、避難所毎に様々な課題があるはずで。通常の訓練でなく、関係者が現場で課題を発見する取り組みが先決ではないでしょうか。	防災	⑩地域防災合同訓練事業
35	このフェスタにはスタッフとして関わってきたが、コロナ禍では如何ともし難いものがありますね。	防災	⑪あさひばみんなの防災フェスタ開催経費

【問1】これまで御覧いただいた【資料1】～【資料3】等を踏まえ、令和3年度東区のまちづくりの取組【資料4】について、御意見がございましたら御記入ください。

No.	意見内容	分類	事業
36	朝の通勤通学時間帯には、自転車の高校生が右側通行や自動車の間を縫って走る危険な走行を見ます。この高校生の交通意識を改めるため、何らかの抜本的な取り組みが必要ですが。	防犯	⑦安全安心のまちづくり事業
37	市防犯協会であまり強く言うと会長のなりてがいない。防犯協会長でパトロールができないと思い、定年制を設けると言ったら大変なことになり、防犯協会がなくなってしまうと言われた。	防犯	⑦安全安心のまちづくり事業
38	新たな人材発掘として、ペットショップや動物病院にチラシを置かせてもらい、犬の散歩をしている人を対象としてアプローチをしてみてもどうか？	防犯	⑧ちょこっとパトロール
39	ちょこっとパトロールの担い手として、大学生への周知や声掛けをするのはいかがでしょうか？	防犯	⑧ちょこっとパトロール
40	この事業が来年度終了予定なら特に意見はありません。でなければ、区内全域にパトロールを呼び掛け、応募してきた高齢者等に“パトロール隊員ワッペン”を支給するといったアイデアは如何でしょうか。		⑧ちょこっとパトロール
41	自主財源による活動へ移行する際には、移行自体に対する支援があると望ましいと思われる。	防犯 まちづくり	⑧ちょこっとパトロール ⑰東区民まつり開催経費
42	“東区”の地域アイデンティティを如何に醸成するか、政策目的を再確認して見直しされるよう。	まちづくり	⑰東区民まつり開催経費
43	コロナ感染の影響で、昨年、今年と2年連続して中止になったのは残念です。次年度では、東区まちづくり懇話会の委員の皆様のご意見も伺いながら、内容の濃いものにして行けたらと思います。	まちづくり	⑲東区地域活性化支援事業
44	以前、「託麻ふるさと大学」等の講座があったみたいですが、今後の企画はないのですか？非常に役に立つ企画だと思います。	まちづくり	⑲東区地域活性化支援事業
45	「老々世帯」と「子育て（共稼ぎ）世帯」の二極化が進んでおり、近隣・地域内でコミュニケーションが薄らいでいる。このことは、町内自治会に参加しない人の増加、地域役員のなりて不足にも表れていると思われる。若い世帯は、平日の昼間は仕事で不在、土日は買い物やレジャーで不在という家庭が多く、また昨今の住宅セキュリティの関係もあって、訪問時の居留守も多く感じられ、訪問しての応接が困難な状況にあります。 一方、老々世帯は、認知症の懸念をはじめ体力の衰え等から外出の機会が減少し、買い物やゴミ捨て難民が増加し、孤立化が進んでいる状況が見られます。 そこで、幅広い世代に学校行事、地域活動、子ども会行事などへの参加を呼びかけ、“参加”し、“企画・立案”し“実践”し、“知り合い・つながりの輪”を深める地域づくりを提案したいと思います。 コロナ禍の中で活動は制限されますが、「できない」ことの選択ではなく、「どうすればできるか」をディスカッションしていきたいと思っています。	まちづくり	⑲東区地域活性化支援事業
46	本年度の東区まちづくり経費の組み立てが、昨年度の自治会アンケートに対する答えになっているのかどうか、私にはわかりません。①から⑧に書いた部分も含め、「地域活性化をどう考えるか。どんな取組み態勢をとるか」について、区内各地域を巻き込んだ取組みをお願いします。	まちづくり	⑲東区地域活性化支援事業

【問2】新型コロナウイルス感染症の影響による貴団体の活動等への影響やそれに対する取組事例がございましたら御記入ください。

No.	意見内容
1	新型コロナウイルス感染症で休館が続き、コミセンの自主活動や地域の各種団体が実施する活動さらには地域住民の生きがいづくりのための生涯学習など様々な活動が停止している状況にある。 当コミセンは事務管理員が月～金曜日の2時間出勤して利用者に対する事務をやっている。
2	昨年来、校区内の自治会はじめ各団体でもコロナ禍での活動に苦慮してきたところです。中には全く活動を休止したままのところもあり、公益団体としての存在意義も考えざるを得ないところです。このような時ですが、一例として秋津レークタウン自治会は、市社協の助成を得てICT機器を導入し、町内にWEBミーティング網を構築して地域の情報通信機能拡充を図っています。またこの中で、スマホを使った「レークタウン自治会LINE公式アカウント」を開設し、既に100名を超える登録を得て、大雨時などに防災情報の発信と住民の避難状況を受信する双方向通信を開始しました。
3	昨年より、京塚夜市（夏祭り）、敬老の日のお祝いの会を中止しています。町内の運営委員会も様子を見ながら行っており、役員会（少人数）に変えることもあります。
4	月1回の公園清掃は行っており、消毒、マスク着用、検温を済ませて参加していただいています。
5	年末はもちつきを行いました。密を避けて、家族単位の参加にして、時間差で重ならないよう工夫し、喜ばれました。
6	緊急事案等を除き書面による定例会を併用しており、今後はオンライン会議も開催予定。自治会ホームページ作成中。
7	コロナ禍で出会いの機会が極端に減少している昨今、「近助」を中心とした分散型の防災訓練を実施することにより、より一層の絆が深まるとともに今後の課題等も抽出される等防災対策事業の推進面、自治会活動等にも大きな効果が期待される。
8	要援護者登録者名簿に登載された方を民生委員・自治会長が訪問し、記載内容の再確認及び避難支援者等の支援体制等を打ち合わせ中で、平常時の避難訓練等、災害時の避難支援等に活用したい。
9	地域一次指定避難所はコロナ感染対策上の観点、熊本震災時の経験等からも要支援者を中心とする者に制限されるため、自宅・周辺の集合住宅・親戚宅等への分散避難の可能性が極めて高いことから、実現可能な避難方法の模索・分散避難先への物資搬送シュミレーション訓練等の必要性が高い。そのための対策拠点となる防災倉庫の設置、防災機材、防災備品等を整備中。
10	所属している校区民生委員児童委員協議会や校区社会福祉協議会は、高齢者の見守りや健康づくり、乳幼児や児童生徒の健全育成、災害時支援など地域住民の福祉の充実を主眼に活動を展開しています。このため、毎月委員全員が出席した定例会を開催（開催場所がコロナによる閉館で使用できない月は、定例会資料等を配布）し、活動内容の確認、各町内の情報交換を行うほか、関係機関からの通知・情報の共有を図っています。また、月初めには朝の挨拶運動として、小学校の校門前で児童に対する声掛けを行い、安全な登校見守りを実施しています。

【問2】新型コロナウイルス感染症の影響による貴団体の活動等への影響やそれに対する取組事例がございましたら御記入ください。

No.	意見内容
11	本来、顔の見える活動が望ましいところですが、コロナ禍にあって、高齢者を対象とした「いきいきふれあいサロン」、乳幼児の母子を対象とした「子育てサロン」などが実施できない状況が続いています。特に、高齢者宅の見守り訪問は自粛している状況ですが、老々世帯も多いことから、可能な限り外観観察(夕方の明かりは点灯しているか、郵便物や新聞の滞留はないか、外灯の点灯状況、洗濯物、庭木の剪定・除草、車や自転車の保管状況など)を行っています。
12	地震や台風、大雨などの災害情報が発令されたときは、電話での呼びかけ等を行うことにしていますが、不審電話として応答されないケースがあることから、外観観察時等の際に名刺のポスティングで地域担当民生委員の電話番号登録を依頼することになっています。
13	対面、集合での活動を中止し、リモート(ZOOM等)で高齢者施設入所者の方と交流を行っている。
14	防犯協会としては、団体行動(団体でのパトロール)は中止。青パトでの活動、青パトでの巡回をお願いしている。校区では青パト以外に、朝夕の見守り活動。2、3人1日2回、公園、学校を重点に実施している。
15	小学校のPTA役員をしていますが、昨年度、今年度と、コロナ感染防止のため、全然PTA活動ができていません。ただ、何か一つは子供たちのために何かをしたいという想いもあり、年末に親子門松づくりを感染防止に徹底しながら実施しました。子供たちはもちろん、保護者達も久しぶりのみんなとの交流に笑顔があふれ、思いきって実施してよかったなあと思いました。
16	見守り活動は、毎週1回電話または感染対策をして、なるべく訪問することにより、顔色、動作、会話等により健康状態の変化が読み取れますし、相手の方の安心感が伝わってきます。
17	公的場所(公民館他)の閉鎖により、通いの場が無いことと、感染予防を配慮し、デイサービス等の利用控えが多く認知症や介護度の悪化、虐待相談が増加している。地域活動や見守り訪問等は自粛している現状で、どのように対応するか検討した結果、戸外で定期的に顔を合わせる機会を作るためのラジオ体操を校区単位で毎週実施している。多世代参加型で情報共有の場である。また介護予防教室では、介護予防、認知症早期発見、消費者被害、虐待防止等に関する情報を映像化し、DVD作成・配布や熊本市の公式Youtubeチャンネルやフェイスブックへ配信している。戸外での青空相談窓口設置。
18	リスクレベルによって対面での対応が難しい場合、電話やリモート等を利用している。情報発信の方法として、現在、映像の配信等を検討している。
19	商店街への影響としては、来街者の減少、商店の売り上げ減少などの影響が出ています。また、集客を伴うイベントなどが出来なくなり、いわゆる「商店街の元気」を伝えることができない状態です。しかし、今後「プレミアム商品券」の発行等を通じて、販売促進に力を入れていきたいと考えています。
20	年始の恒例の総会及びその検討会が感染防止のため、自粛し紙面で行っている。恒例の託麻新四国八十八カ所巡りが自粛中である。たくま夏祭りの中止により、史跡の写真展ができてない。

【問2】新型コロナウイルス感染症の影響による貴団体の活動等への影響やそれに対する取組事例がございましたら御記入ください。

No.	意見内容
21	住んでいる地区の自治協議会では、感染症拡大防止の観点から集合型の協議や見守り活動等が全くできていない状況。団体の活動への影響ではないが、通常は普段の地域活動や学校活動の中で顔を知りコミュニケーションを図る機会が作られていますが、その機会が低減していることは、防災の観点からすると非常時のリスクが高まっていると感じます（住民同士での助け合いがしづらい。顔を知っているとスムーズに助け合えることも滞る可能性）。特に、地域への新規参入者への働きかけが重要になってくるが、このような方は、新型コロナウイルスが蔓延している状況下では中々地域に入っていく機会が作れないと思われる。
22	今後は、この状況下でも知り合う機会をどのように作るかが重要だと思います（具体的な取り組み事例はありません）。普段から不安を書き込み共有できるような場所（Lineのオープンチャットのようなもの）があると若い人たちであれば交流が図れるのかもしれない。
23	作物部会の会合や研修などが中止になり、情報収集が難しくなった。
24	感染か拡大防止の観点から、第2回懇話会も紙面の方が良いのでは？ また、ワクチン接種も確認されたほうが良いと思います。

【問3】ウィズ（with）コロナ※におけるまちづくりについて、貴委員が考えるまちづくりのあり方や必要なことがあれば御記入ください。※新型コロナウイルスとの共存・共生を前提とした生活様式のこと。

No.	意見内容
1	まちづくりビジョンの5つの基本方針に基づき、地域における課題解決に向けた取り組みとして、地域が主体となることは、地域役員の情報ネットワークができていない現状があるのではないかと？ まずは、地域役員の会議や研修をする場所が無いという現状がある。少人数から地域コミセンを利用して、会議や研修の場を考えてみてはどうでしょうか？
2	「コロナが終わるまで何もできない」というのでは、それだけでコロナに負けています。おそらくこのような感染症はこれからも波状的に発生し、世界を覆うでしょう。感染症は「正しい情報で正しく恐れる」姿勢が重要です。 そのような考えのもとで、私の自治会では秋津レークタウン自治会のような取組をすすめているところで、直接は顔を合わせなくとも、地域の中で連絡を取り合える仕組みは大いに広めていきたいものです。
3	なかなかコロナ禍の終わりが見えてこなくて不安な毎日を送っていますが、生活はしていかなければいけないので、手さぐり状態です。 基本的なコロナ対策を行いつつ少人数から会議や集まりも行っていくべきだと思います。ただ、絶対にマスクをはずさない（飲食しない）短時間で！ということを守ってやっていいのではないかと思います。
4	自治会定例会もオンライン会議を推奨する方向性を示してほしい。
5	行政（区・まちづくりセンター）と自治会（特に自治会長・自主防災クラブ会長）とのオンライン化が急がれる。
6	電子回覧板導入に賛成。回覧物が多い場合、重要な案内文書も埋没し、すべてに目を通さない人が多くみられる。WEB等にアップ可能な公共用文書類等は回覧物から除外し、特に重要なもののみ回覧に供するなど電子回覧板との併用を実施する。なお、高齢者等ペーパーを希望される方は回覧版を併用する。閲覧履歴のチェック機能、個人情報等のセキュリティ対策は必須。

【問3】ウィズ（with）コロナ※におけるまちづくりについて、貴委員が考えるまちづくりのあり方や必要なことがあれば御記入ください。※新型コロナウイルスとの共存・共生を前提とした生活様式のこと。

No.	意見内容
7	コロナワクチン接種対策に見られるように、高齢者世代には各方面においてある程度の目配りがされています。半面、これからの社会を築いていく学生や働き手世代に対する情報伝達は十分構築されているでしょうか。このコロナ感染拡大の中であって、若手世代の感染者急増の現実、正確な情報が正確に伝わっていないことを表しているように思われます。 昼間のテレビ等の報道を視聴する機会の多い高齢世代は、さまざまな情報を入手できており、ワクチン接種しないことのリスクの大きさや幼児までの感染拡大傾向を把握できていると思いますが、時間的にそのような機会の少ない学生や働き手世代に対し、「正確な情報伝達ができている」といえるでしょうか。穏やかな安心安全な生活を営んでいくには、何よりも、コロナ感染拡大防止でしょう。感染者の急激な拡大が続いています。今日の「災害レベル」の非常事態を地域一丸となって乗り越えなければなりません。実感として目に映る感染防止の呼びかけが必要です。例えば ① 電車やバスなどの公共交通機関での予防対策のアナウンス(特に通勤・通学時間帯) ② 電車やバスなどの車体を利用した横断幕の活用 ③ 各機関・団体の発行する情報誌(紙)への予防対策の掲載 ④ スーパー、デパートのチラシへの予防対策の掲載 ⑤ 地域消防団による消防車利用による予防対策のアナウンス ⑥ 安全パトロール(青パト) 利用による予防対策のアナウンス 等々 あらゆる媒体を活用し、すべての世代に対して今一度、感染時のリスクの大きさを周知し、特に、学生や働き手世代に対しては「自分は感染しない」という他人の意識から「家族に感染させない」「友人に感染させない」「職場で感染させない」という意識転換の呼びかけが必要でしょう。
8	月1回の町内清掃は、中止・開催をコロナ発生状況を見ながら実施。町内住民の高齢者見守り、孤独死対策として、清掃活動もだが町内会費は会計へ持参ではなく、役員が各家庭を回り徴収してもらう。住民からも、人影が見えないとすぐ連絡がくるので助かる。回覧も同じ。電子化等したら大変になる。孤独死が増えてくる。発見が遅れる。独り住まいが多く、人との接点が無いので。
9	学校では、タブレットを一人一台導入して、オンライン授業に取り組んでいます。子供たちは、必要に応じてタブレットの使用法などを学校で学んでくるが、親の世代では、特にシステムに詳しい方以外はついていくのが難しい。40代、50代、60代に向けてICT講座を積極的に開催していただけるとありがたいです。
10	生活の殆どが対面で実施していた部分をオンライン化する。必要な情報の発信や健康意識を高めるためにテレビ・ラジオはもとよりDVD、スマホのLINE等を活用し、情報発信していく。誰もが活用できるようスマホ費用の助成や無料提供の検討。
11	小規模（校区）単位で、オンライン会議や顔を合わせる場として公民館、コミセン等へのWi-Fi整備。
12	民間企業から協力を得られる体制づくりの検討（見守り体制整備）
13	東区版のLINEを作成し、分かりやすいアイコンで回覧版が見れたり、地域活動の様子がわかると、慣れていない方でもアクセスしやすいのではと思う。ICT講座と連動できると、具体的な活用にもつながるのではないか。

【問3】ウィズ（with）コロナ※におけるまちづくりについて、貴委員が考えるまちづくりのあり方や必要なことがあれば御記入ください。※新型コロナウイルスとの共存・共生を前提とした生活様式のこと。

No.	意見内容
14	商店街もIT化を進め、来街者に対してのインフォメーションやEC販売等に積極的に取り組む必要性を感じています。しかしながら、経営者の高齢化もあり、若い経営者の育成が一つの課題です。
15	コロナに対する知識不足が、第2波第3波となっている。実際、去年私の周りでは、コロナはただの風邪だから大したことないとか聞いていた。情報社会だからこそ、正しい情報発信をすべきだと思う。
16	withコロナを転機と考え、活動・会議等にメール、タイムライン、インスタグラムの取入れ、もしくは勉強会を行ったらどうかなと思う。三山会では、グループラインを始め、情報の共有化ができるようにしましたが、一部の人しか活用ができていませんが、一つの進歩だと思っている。
17	地域活動に、ICTを普通に取り入れていく必要があるかと感じます。そのためには、例にも示されている回覧板の電子化をはじめ、地域住民が語り合う場、相談する場等にもっとアクセスしやすくする工夫（場の創出と広報）とそれらを活用しやすくする指導（勉強会等）を並行して進める必要があると思います。その上で、実際に顔を合わせることの重要性が高まっていくと思いますので、ワクチン接種や陰性確認が必要になるとはいますが、分散しながらの地域活動の実施方法も整理しておく必要があるかと思っています。また、地域の活動はやりっぱなしになることが多いので、それらを記録しておくツール（これらを伝えるのは回覧板の電子版など）の検討などもあると、withコロナでも、地域のコミュニケーションがある程度保たれながら、住みやすいまちづくりが実施できるのかなと感じます。
18	ワクチン接種など基準をクリアすれば、色々な活動ができるようにある程度のガイドラインを設定したらどうか。
19	ワクチン接種済み証等の発行は可能でしょうか？

第2回 東区まちづくり懇話会 書面開催

○開催期間 令和3年(2021年)10月8日
～ 令和3年(2021年)10月18日

○議題Ⅰ 令和4年度東区のまちづくり事業案良いと思った事業の選択

○議題2 選択した事業のうち、最も関心のある事業について、御意見・御提案

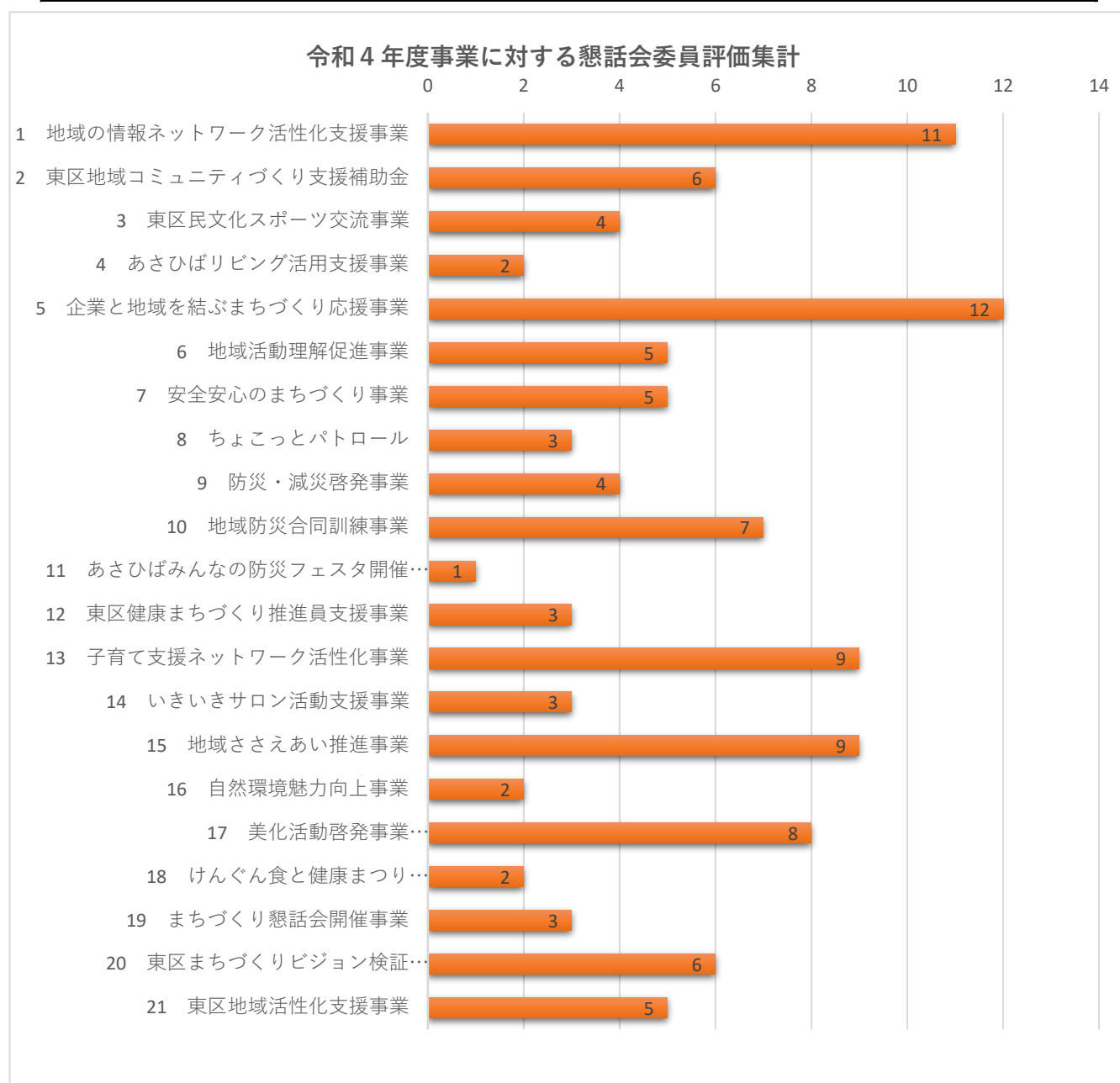
○議題3 その他、事業に関する御意見、御提案

第2回東区まちづくり懇話会 書面開催結果

○集計期間 令和3年10月8日～18日

委員の皆様よりいただいた御意見を、以下のとおり集計しました。

【問1】御覧いただいた【資料2-1】【資料2-2】を踏まえ、令和4年度東区のまちづくり事業案について、良いと思った事業、より推進してほしい事業がありましたら選択☑してください。（複数選択可）



●最も関心を持っていた事業

- | | | | |
|---|-----|--------|--------------------|
| 1 | 11票 | 【事業05】 | 企業と地域を結ぶまちづくり応援事業 |
| 2 | 10票 | 【事業01】 | 地域の情報ネットワーク活性化支援事業 |
| 3 | 9票 | 【事業15】 | 地域ささえあい推進事業 |
| 4 | 8票 | 【事業13】 | 子育て支援ネットワーク活性化事業 |
| 4 | 8票 | 【事業17】 | 美化活動啓発事業 |

【問2】問1で選択した事業のうち、最も関心のある事業について、御意見、御提案等がございましたら御記入ください。

事業	意見内容
1 地域の情報ネットワーク 活性化支援事業	仮に地域の活動者がICTを嫌いでも、今後の活動にその活用は不可避だ。そこで市が、地域のICT普及に主導力を発揮してもらいたい。例えば、校区の地域活動諸団体の会合をリモートで開けば、密を避けつつ参加しやすい環境を整えることができる。このような個別活動のICT化を、市が支援者の立場でリードして進めていけば、地域のICT導入が地域主体の望ましい形で実現していくのではないかな。
	自治会でもホームページ作成までしなくてもメールによる問い合わせや活動報告など回覧板と併用したらどうかと思います。
2 東区地域コミュニティ づくり支援補助金	H30にこの補助金を受けた当自治会の経験から、補助を元に地域活動を継続していくことは容易ではないといえる。そのことからいえば、これまで補助を受けた各地域の活動が、その後の継続的取り組みに繋がっているか或いはないか、検証的に補助の成果を評価していくことは、決して無意味ではないだろう。
3 東区民文化スポーツ 交流事業	令和2年度(R3.1月)どんどの開催がコロナで中止となり、子どもたちへの故郷づくりの一環として、書初め大会を小学校と打ち合わせして実施したら好評で、今後も毎年続けていくことになった。
4 あさひばりビング (地域交流スペース) 活用支援事業	市民の自由な発想だけでこのスペースの活用を図るには限界があり、コロナ禍が続く間、人を集めるにはなお支障もある。そこで、例えば事業1番[地域情報ネットワーク活性化]の実施場所として、あさひばりビングを拠点に市のフリーWi-Fiを活用した地域活動諸団体のリモート会議ができないか。また、市の公共スペースとフリーWi-Fiを地域活動に生かす場合は、秋津まちづくりセンター以外のセンターや地域コミュニティセンターを同様に使えると思う。この際、そのような形で公共施設の利用を開放したらどうだろうか。
	この事業はワークショップを通じて組織横断的な内容を市民に伝えることのできる重要な場だと思いますので、そのような複合的な視点をワークショップの前後にも付け足してほしい(防災・福祉・防犯・子育て・健康・まちづくりなど)
5 企業と地域を結ぶ まちづくり応援事業	少子・高齢化が進む中、従来の民間ボランティアによる各種活動の推進は困難な状況が見込まれます。一方、企業においては、地域活動への貢献・協力の姿勢が強くみられるようになりました。そこで、企業がもつ知的な面、人的な面での協働が得られることは、地域活性化にとって望ましいことと思われます。 <例> ・熊本地震後の住宅地内の空き地の整備・除草 ・イベント等の企画・立案におけるノウハウの提供、人材の派遣 ・災害時等保存物資の入れ替え時、子ども食堂や子育てサロンなどへの物資の提供
	地域活動と企業との連携を図る取り組みは、企業の社会的責任という点から歓迎したい。但し、企業が純粋に地域社会への貢献を目的にしている(収益増を目標としていない)ことが前提だろう。実際どのように進むかよくわからないところもあり、今後の事業進行に注目していきたい。なおこの事業は、むしろ“基本方針5[暮らしやすく活気あふれるまち]”に分類されるべきではないだろうか。
	企業は地域貢献をしたい、地域に根付いた活動が何か出来ないかと模索されている。以前トヨタから自社の車を活用した地域貢献が出来ないかとの話があり、サロン等での移送サービスに繋がっている。ICTの活用は今後の地域活動やその他の活動を進めるうえで必要不可欠と考える。タブレットの貸与や実技指導等で人・物の資源提供、地域活動の担い手に繋がることを期待している。

【問2】問1で選択した事業のうち、最も関心のある事業について、御意見、御提案等がございましたら御記入ください。

事業	意見内容
6 地域活動理解促進事業	このコロナ禍で活動が殆ど中止になり、地域のつながりが希薄化していると感じる。若い世代の関心を持つような地域活動に参加しやすく興味のある企画も必要と思う。
8 ちょこっとパトロール	新たな人材発掘として、ウォーキングやジョギングに取り組む方が利用されている可能性が高い、スポーツジムなどに広報してみてもどうか。 防犯だけではなく、危険な場所（道が陥没してる等）の発見にも結びつけられる活動になるのではと考えられる。 自主財源としての企業協賛金を募集していく際に、協力していることがわかる発信（参加企業にステッカーを配布したりして表示できるものや、SNSなどでの協力企業としての公開など）企業側にもプラスになる仕組みづくりが必要と感じる。
10 地域防災合同訓練事業	校区防災連絡会は各校区で発足しているが、活動はなお十分な成果につながっていない。そこで提案だが、校区の避難所（秋津校区では、まちづくりセンター・秋津小・東野中）を順次会場として防災連絡会を開催し、避難所運営の実地検証と課題検討を行っては如何か。その上で防災訓練（参加対象は自治協議会メンバーなど一定の地域指導者）を実施すれば、防災の実質的実効性は高まるのではないか。 最近の気候は以前よりも被害が多く、生活に直接影響を受ける。市民一人ひとりが意識を強く持つことは良い事だと思う。実際訓練に参加し、行動することはいざという時必ず役に立つ。
12 東区健康まちづくり推進員支援事業	コロナ禍のため外出頻度の減少、運動量の減少が生活習慣の悪化を来し、疾病の増加や悪化、さらに認知症発症や増悪を引き起こす（実際高齢者の問題は表面化しつつあり）ことが心配される。最近ではコロナに対するリスクレベルは下がりつつあるが、まずは3密を回避した運動指導、さらにはコミュニケーション形成のまちづくりを進めていただきたい。
13 子育て支援ネットワーク活性化事業	「熊本市は人工妊娠中絶率が高く、とりわけ東区は～」という点に、改めて啓発が必要であると認識しています。 中高生との関わりからその重要性に切実な関心を持っています。 具体的には、まず、乳幼児を持つ保護者に啓発を行っていくことからかと思っています。 それぞれの事業はどれも大切な内容を含んでいると思いますが、専門外にもかかわらずあえて挙げさせていただくならば「子育て支援ネットワーク事業」です。 理由は2つありまして、一つは少子化を食い止めることは熊本市のみならず国全体の問題であると思うのと、二つ目は当該者の「困り度」が割と大きいのではないかと思います。 安心して子供が産めて、子育てがしやすいまちづくりをすることにより街にも活気が出てくるのではないかと思います。 具体的な内容は色々考えられるでしょうが、とりあえずは現在の子育て支援ネットワークを拡充して、幅広い活動ができるようにすることが大事かと思います。 アイディアは現場の方々がそれぞれにあるでしょうが、例えばということを出させていただくと、「子育て相談センター」あるいは「子育て相談ネット」の開設であるとか、仕事を持つお母さんの悩みの種である待機児童対策のための「保育サービスコンシェルジュ」制度創設とかシルバー層との橋渡しを兼ねる「子供家庭支援員」制度を作るなどが考えられるかと思います。

【問2】問1で選択した事業のうち、最も関心のある事業について、御意見、御提案等がございましたら御記入ください。

事業	意見内容
15 地域ささえあい推進事業	地域の認知症対策が必須となる今日、この事業は大いに進めていくべきだ。これまで啓発活動や意識の醸成などに取り組まれているが、今後はさらに実践化を進める取り組みを求めたい。例えば、民生委員が担当地域を自治会役員と協同して見守り活動を行うなど、有効な事業の分野や手法をもっと掘り下げるべきだ。
	地域には様々な考えの方々がいます。私たちと同様に頭では分かっているが、自分の都合で身体が違う方に動くこともあります。 高齢者一人暮らし、認知症や障がい者、生活困窮者家族は、自治会等による名簿作って組織化するのは嫌っています。奉仕活動者は自発的に仲間を集めて、徐々に会の理念や会計、研修、個人情報等の守秘義務を守っていければトラブルなく対象者との信頼性が高まります。市はその活動を見守って、できる支援について提案してください。
	認知症サポートリーダー養成講座について、認知症サポーター養成講座の受講のみが受講資格となっており年齢層を問わない（学生なども含む）等も明示されていると周知しやすいように思われます。勤務先は学生を対象に認知症サポーター養成講座を毎年実施しており、その次の活動へとつなげる良い機会となるのではないかと思います。
16 自然環境魅力向上事業	懇話会意見の中に「江津湖の魅力向上策を。」という意見がありましたが同感です。 江津湖の環境保全はご苦労されていると思いますが、新聞とかで清掃活動の様子が掲載されていますが、まだ認知度が低いと感じます。もっとこの清掃を拡大する方法がないものかと思います。私は三山会という小さなボランティアグループに所属していますが、我々の様な小さなグループが東区にも沢山存在していると思います。そこにもっと働きかけると人員も集まると感じます。グループの中で活動計画の検討も必要になるかと思いますので年間の計画も具体的にしてもらえれば総会等での検討も可能になると思います。また近隣の企業への働きかけもできないものかと思います。趣旨に賛同される企業もあると思います。事業5番にもつながると思います。 これを自治体、ボランティアグループ、企業との連携を拡大していけば大きな力になると思います。市街地の中にこんなきれいな水と自然の宝庫を大切に、もっと活用できないかと思います。

【問2】問1で選択した事業のうち、最も関心のある事業について、御意見、御提案等がございましたら御記入ください。

事業	意見内容
17 美化活動啓発事業 (ごみステーション管理啓発)	ゴミステーションの管理は持ち去り業者の公表も行われるようであり、だいぶ行き届いてきたように思います。作品の“標語”を地域のステーションに掲示することなどはどうでしょうか。 全国都市緑化フェアの開催が予定されており、会場だけでなく清潔感あふれるさわやかな街路が望まれます。 <例> ・小学校の緑化活動、校区の老人会などと連携して季節花の育苗を行い、プランターに移植して商店街歩道(店舗先など)に設置。管理や捕植を商店街等に依頼
	今や地球的課題は気候変動から気候危機へ移りつつあり、世界の環境への意識は否応なく高まっている。その視点から町内のごみステーションを見つめることは、問題の本質を捉える上でも重要なポイントとなるのではないか。即ち、燃やすごみの削減は地球温暖化対策の最前線に位置する課題であるといえ、プラごみの分別向上はマイクロプラスチック対策にもつながっていく。大きな環境問題を、足元に転がる小さな課題から考え、解決に取り組む姿勢での事業化を求めたい。
	折りたたみごみ箱設置の推奨及び私有地以外での施設整備補助金対象としてほしい。 (現状)・私有地でないと折りたたみゴミ箱等の設置には補助(ごみステーション施設整備補助金)がでない。 (問題点) ・ごみネットを使用中の地域も多いと思うが、消耗品のため何度も買い替えが必要となり管理支援補助金支出の大半を占めており、費用が嵩み費用対効果は低い。 ・ネットのためカラス対策効果が弱い。 ・ごみネットが広がったり破損したりして、通行者への怪我等危険リスクが高い。 ・地域内環境上の美観が損なわれている。 (効果・要望等) ・折りたたみゴミ箱を公園内(公有地)及び公道上での設置を認めてほしい。 また補助対象としてほしい。 ・ごみ収集業者の立場からみた場合、折りたたみ式の方が管理上ベター。 ・現状より折りたたみ式設置の方がゴミ収集後のスペースが縮小する。 ・美観が現状より軽減され、カラス対策効果も高い。 ・不法投棄、違反ごみの問題なども解消しやすく、自治会として管理が容易となる。 (その他) ・環境(ごみ)問題を学校等と連携し、地域全体の課題として一緒に考える協力体制強化は必須と考えます。ごみ減量、資源の再利用、ゴミステーションの美化などを意識啓発する活動を自治会・学校・PTA・企業・行政と連携して続けましょう。 ごみステーションの清掃、分別等のごみルールを守り、不法投棄がしにくい環境を作りましょう。
20 東区まちづくりビジョン 検証市民アンケート事業	無作為にアンケートをとることで、幅広い年齢層から、まちづくりに興味のある方、ない方から様々な意見を得ることが出来、どのようなアンケート結果が出るか興味深い。

〔問３〕自由記載。問２のほかに御意見等ございましたら、御自由に御記入ください。

No.	意見内容
1	問２に記した事業以外も、いずれも意義ある事業ばかりだと思います。事業の目的を明確にしつつ、その手法や到達目標は柔軟に対応して取り組まれるようお願いいたします。 〔現下の諸情勢と行政や地域活動に関する私の考えを、概括的に以下に記しました。〕 新型コロナウイルスの流行も、最近は新規感染者が急激に低下し、疫病退散と期待しても良さそうですが、専門家の「第６波に備えよ」という警告を聞けば、市民生活はまだ制限の多いものが続くことは避けられないと思います。 私たちは、その状況が今後も続くという前提で、地域のあり方を考えコミュニティ形成に関わる必要がありますが、地域に横たわる課題は見えないところで日々積み上がっており、それはやがて目に見える形で噴出しそうな気がしています。例えば、高齢者の孤独死（最近はふたり孤独死もあります）や認知症高齢者の増加に伴う問題などに対して、コロナ終息を待っているのは手遅れになります。 また更に大きな問題である地球の気候危機に対して、私たちは自分たちの手が届く範囲でできる限り対応していくほかありませんが、その視点で改めて行政のあり方を考えるとき、“自然豊かな笑顔あふれる未来のまち”という区のメッセージは、更に新しい課題を示してもいて、２０３０年のタイムリミットに間に合うための行動を求めているように読めます。 そのような状況の下、区まちづくり推進経費は、SDGsに位置付けるだけでなく、実施に際して有効性を追求する更なる取り組みが必要です。間もなく、去年の国勢調査結果が公表され、おって詳細データも出てくるでしょう。そこで東区の将来人口（世代・世帯）構成の推移等を分析すれば、将来的な地域の課題もより深く見えてくるに違いありません。行政の需要と課題に、先手々々で対応していけるよう願います。
2	2. 地域の情報ネットワーク活性化支援事業 自治会活動でのオンライン会議や防災講座等でのパソコンを使用するが、ＩＣＴの活用促進のためにもWIFI等のネット接続費の支援策を考えていただきたい。 ホームページの作成がなかなか進みません。マニュアル整備等（個人情報等のセキュリティ対策）を含め充実したサポート体制を望みます。 3. 企業と地域を結ぶまちづくり応援事業 災害時での自治会・自主防災クラブとの協働支援体制をにらんで企業と地域のマッチングとして、どの自治会にも共通に立地する企業として、コンビニ等（日本フランチャイズチェーン協会、全国スーパーマーケット協会）のほか、クリニック（医師会）等をターゲットにしてみたいはいかがでしょうか。
3	日常の簡易な情報伝達は、SNSやパソコンなどIT利用により図られるものの人の心の伝達は“顔”と“顔”の出会いに優るものはないでしょう。今日、地域活動の中心は高齢者が多く、次の担い手探しが困難な状況になっています。若手世代の人材育成、掘り起こしのため幅広い世代間のコミュニケーションを図ることが大事でしょう。 狭い地域内活動ですが、毎朝の通勤・通学時間帯の１時間、街路での朝の挨拶・声掛けを行っています。その際に、子供の見送りに出てきた若い世代の方にはゴミステーションの使用や子供会活動の状況のほか、「ママ友」づくりの情報を提供しています。子育ての立ち話から同世代の親同士が知り合いになる機会が来ています。これからの地域づくりの担い手に期待したいと思います。
5	難しい事は要らない。子どもたちの頭は柔らかいからすぐ順応し覚える。大人は考え方を变化させるのは並大抵ではない。子供の頃の思い出は大人になっても消えない。犯罪も起きない、子供たちの故郷づくりを進めていきたい。
6	5番 今まさに、一般企業ではコロナ禍により今までと同じ経営方針では事業が成り立たなくなってきました。そこで、企業と地域とのつながり（コミュニティ）が注目されつつある中、こちらの取り組みが気になりました。もう少し、具体例が知りたいと思いました。

〔問3〕自由記載。問2のほかに御意見等ございましたら、御自由に御記入ください。

No.	意見内容
2	1. 安心安全のまちづくり関連 自治会では野良猫の対応（糞尿による悪臭や鳴き声等）に困っています。 近年、人々の動物に関する意識が変化し、動物たちを単なるペットとしてではなく、人々の心を支え、潤いと喜びをもたらす家族の一員として飼養する家庭も増えており、県民の動物愛護に対する機運が高まってきています。 第3次動物愛護推進計画（平成30年）の基本指針では、「地方公共団体は、動物の愛護と適正な飼養に関して、学校、地域、家庭等における教育活動や広報活動等を通じて普及啓発を図るように努めなければならない」とされている。 個人・自治会が隣人間の紛争を避け、法的にもクリアする野良猫対応の仕方を、行政はインターネットや新聞等を活用し市民に周知させ、動物愛護に関する啓発の強化を望みます。 （周知のための参考情報） ●野良猫が増える原因・・・空き地や公園等での給餌が主因。無責任な餌やりの自重が必要。 ●行政の対応 熊本県や熊本市は、餌を与えている人を特定した場合、近隣に迷惑をかけている現状を説明。餌やりの中止や屋内飼育を呼び掛ける。 保健所や熊本市動物愛護センターは、捨て猫の相談に対し、不妊去勢手術や、糞尿などを地域で適正に管理する「地域猫」化を勧めている。 【結論】 ◎野良猫への対応・・・飼い主以外の者に対する動物愛護精神の涵養など啓発の強化を図る ●住民・自治会の対応 ①不当な野良猫への餌やりを発見したら、鳥獣愛護法に抵触する関係上自分で殺処分などせず、関係住民とのトラブル回避・裁判等に対処するためにも、必ず公的機関の役所・保健所・動物愛護センター等へ相談する。 ②ペット飼育方法の看板設置、広報活動等。 ●通報後の役所の対応例 ①飼い主のいない猫に餌を与える人に、責任の自覚を促す指導の実施 ②猫の生態・習性を理解し、効果的に飼い主のいない猫対策に取り組むためのパンフレット作成及び町内会・自治会等へのパンフレット配布 ③地域との協働による飼い主のいない猫に対する避妊・去勢への助成 ④地域猫対策に取り組む自治会等への支援 ◎飼い主のいない猫に餌を与えている方への対応 ①これ以上、猫が増えないよう、不妊去勢手術を受けさせる。 ②餌を与える場所、時間を決め、食べ終わったらきちんと片付ける。 ③糞や尿の後始末をする。 ◎飼い猫への対応・・・飼い主の意識の向上等の啓発強化の促進 ①適正飼養や終生飼養に努めなければならない。飼い猫の健康と命を守るための室内飼育は、「熊本市動物の愛護及び管理に関する条例」では努力義務となっている。 ②首輪・迷子札をつける。 ③動物がみだりに繁殖して適正飼養が困難となる場合、不妊去勢手術は条例で「義務」。
4	【事業8について】 ワッペン等の通勤通学の際に気軽に身に着けることのできる物はとても良いと思います。自分自身も徒歩通勤することがありますが毎回ビブス等を着用するのは難しいです（ちょこっとにもなりにくいと言いますか）。 【事業19番について】 個々の意見を提出するのも良いのですが、やはり意見を「交わしながら」の機会があると良いのかもしれませんが。そのためにもWEBでの開催を早めを実施していただけると幸いです。私にできることがあればご協力します（大した事はできませんが）。 【事業20番について】 無作為抽出の2000人にどのようにアプローチされるのかわかりませんが、アンケート実施の際は今回の書面開催のようにForms等を使用したWEB回答も利用すると回答率が上がるように思います。 大変でいらっしゃるなか意見様式等の拡充等にご尽力いただき有難うございます。おつかれさまです。

〔問３〕自由記載。問２のほかに御意見等ございましたら、御自由に御記入ください。

No.	意見内容
7	今年度地域ささえあい推進事業の予算が縮小されたことは残念でした。コロナ禍で２年目を迎えた昨今、住民どうしが顔を合わせる場所が殆ど無くなり認知症の方や虐待に繋がるケース、介護保険の申請が増加している。地域の見守りを強化し早期発見、予防、支援につなげるため、今年度はオンラインで認知症サポーター養成講座や介護予防サポーター等の講座、権利擁護の動画配信等を実施している。課題は多々あるが、住民の理解を深め見守り（サポーター）の輪を広げるための活動を今後も継続するため、ささえあい推進事業の助成を期待しています。ちょこっとパトロールの継続も賛成です。地域住民のみでなく、５番の企業へもアプローチはいかがでしょう。通勤時のちょこっとパトロールは可能では。
8	・１番 ICTの促進により、研修等の実施や参加にも結びついていくのではと感じている。 ・３番 パラリンピックの競技ボッチャなどの障がい者スポーツは、障がい者だけでなく子どもから高齢者まで、様々な世代で楽しめると思う。 ・９番 地域の中にある災害が発生した時に利用できる場所（駐車場、トイレ、井戸など）の情報発信。 ・１０番 合同訓練の際に、熊本市の熊本市災害時要援護者避難支援制度に登録している人に呼びかけ、実際の訓練に参加してもらうことはできないだろうか。少人数でまずやってみて、課題を共有することから始めると円滑な対応が可能になるのではと思う。

〔問３〕自由記載。問２のほかに御意見等ございましたら、御自由に御記入ください。

No.	意見内容
9	【事業7について】 私は保田窪4丁目に住んでいます。西原中学校と西原小学校の通学道路があります。通学道路の西原中学校正門通りは、比較的道路は広いのですが、反対側の道路は車が離合できないような狭い道路です。通学時間帯の中学生の通行は危険な状況にあります。 右側通行左側通行かまわず、道路に広がっての通行、車が前後から来てもよける気配がない、警笛をならしてやっとよけるという状態が常です。幸い今のところ人身事故の話は聞きませんがいつ発生してもいいような状況にあります。この状況をいかに改善できるか?これといった解決案があるわけではありませんが、問題があると認識します。
10	一つ一つの事業は、色々と考えられており基本的にはすべて重要な事業だと感じました。ただし、事業効果をもっと広める視点からは市民の皆さんにどのように周知するかが重要に思えます。HP等で公表はされていますが、市のHPを積極的に確認する住民はそれほど多くはないと思いますので、現在進められているLineでの周知や地区で開催される（コロナ禍で困難だと思いますが）会合などの機会をみて周知できると良いと感じました。その意味ではInstagramの開設等はチャンネルを広げる取り組みで良いなと思いました。 また、一つ一つの事業はとても良いと感じますが、組織横断的に横ぐしを指すような取り組みを実施するともっと効率化や実効性が高まると感じました。例えば、地域活動理解促進事業の中に、PTA活動や子供会活動への理解促進だけでなく、防災の視点や健康づくり（食育など）の視点、交通安全の視点等を入れ込むことにより、市民は一度の事業参加でより多くの事業で実施する内容を体験（知る）することができるかと思います。このような東区が進めたい基本方針（目的）に対して組織横断的な事業展開があるともっと効率的で実効的な事業が実施できるかと思いました。 「企業と地域を結ぶまちづくり応援事業」はとても面白い取り組みだと思います。できれば、単なるマッチングだけでなく企業がマッチングをしたくなるインセンティブをもっと明確にし、現在東区が推進したいが予算面でなかなか推進できないような方面に積極的に参画してもらうことなどの戦略も必要かと思いました。企業の広告宣伝費を使い、企業の宣伝をピンポイントで必要な人に届けて、かつ東区の事業も進む（費用面でも）ような取り組みは一石二鳥の取り組みで、今後推進していくべき取組かと思いました。 ICT化の良さは、効率化を図るとともに一つのコンテンツを様々なチャンネルで配信できることにもあるかと思います。その意味では、今回の事業の中に散見されるとおりワークショップや何らかの取り組みを録画・整理しておき、様々なチャンネルに載せて市民に周知することも重要だと思います。このような取り組みを実施することで、例えばその方面に興味のない人の目にも触れ意識を醸成することにもつながるかと思います。今後事業を推進する上でこのような視点で情報やデータを整理いただけると市民としてはありがたいです。
11	令和3年度の東区まちづくり事業予算の減額は妥当であると思われる。しかし、令和4年度の予算編成時に響かない様をお願いしたい。 問2に書いているが、まだ集団として集まるにはリスクが高いと思われるのでスポーツ事業やコミュニティでの交流は慎重に行うことがよいのではと思われる。
12	職員の方などの意識を確認すべきだと思います。
13	予算・人員が限られる中で、似たような事業は統合しても構わないのではないかと。逆に異なる事業（例えば高齢者と子育て世代とか）を同じ事業化するとかもいいのでは。

第3回 東区まちづくり懇話会 書面開催

○開催期間 令和4年(2022年)3月4日
～ 令和4年(2022年)3月18日

○議題Ⅰ 自治会加入促進の取組についての評価

○議題2 自治会加入促進事業の取組について御意見、御提案等

○議題3 ご自身が加入されている自治会の活動等について

○議題4 「区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所に」について

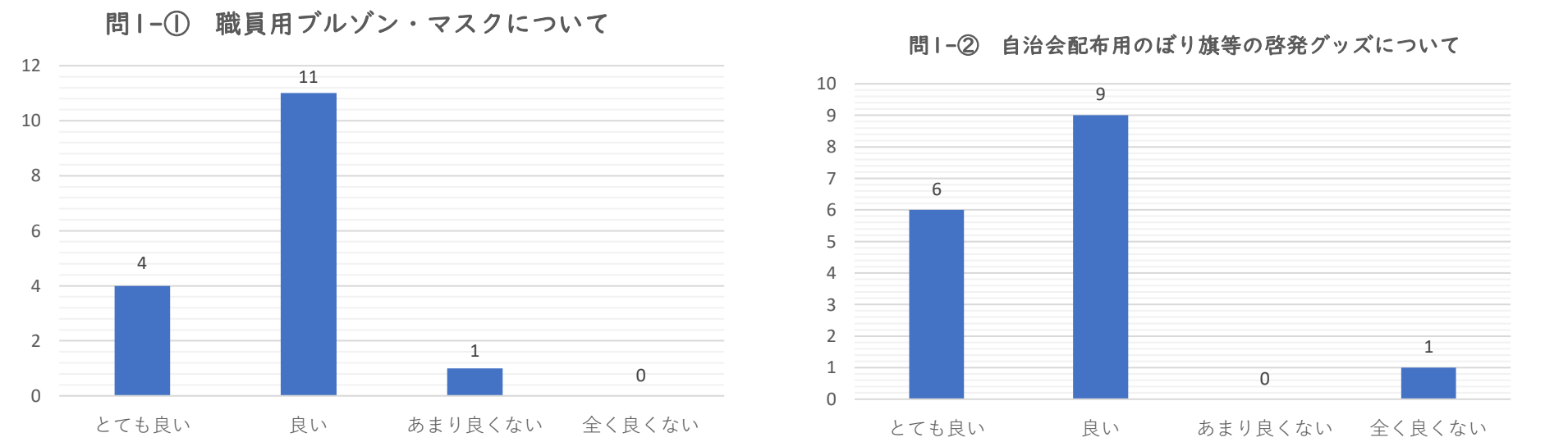
○議題5 区役所・まちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所へするための提案について、良いと思った提案

第3回東区まちづくり懇話会 書面開催結果

○集計期間 令和4年3月4日～18日

委員の皆様よりいただいた御意見を、以下のとおり集計しました。

[問1]東区役所では、自治会加入促進を図るため、各種自治会加入促進グッズを作成しました。
資料2-1「自治会加入促進の取組について」をご覧ください、それぞれ当てはまるものを選択☑してください。



[問1-③] その他、自治会加入促進啓発グッズとして何かアイデア等がございましたら御記入をお願いします。

No.	意見内容
1	自治会加入を促進するグッズは、全般的にコストパフォーマンスの低いものとなる可能性があるが、現代人が日々手にするスマホを活かすなら、効果が期待できるかもしれない。 例えば、私の自治会では“LINE公式アカウント”で情報発信（大雨の時に近所の川の様子を撮ったり、迷子の犬や猫を撮ったりして、写真をアップロードするなど）しているが、受信者を自治会員に限ることとすれば、自治会加入のメリットとして謳うことができよう。
2	自治会に入ったら、ゴミ袋（中）を1つ下さいます。他の所は、コロナなので2袋とか、校区、町内でもさまざまですので、自治会に入会の良い所等書いてあるゴミ袋があればと思いました。
3	自治会必要無い・・・こんな人達グッズも何人にも無し 話にも、宗教・政治を持ち出し、逃げるだけ 一緒に住んでいて怖いと・・・口に出しても自治会は無理と
4	「転入者証」（仮称）の交付 若い世代（特に、震災後新しく転居してきた方）は、「〇〇校区〇〇町内〇〇班」を意識しないまま居住が始まり、ゴミ捨て場の場所や清掃当番のことなど理解していないケースがあり、隣人等から指摘され嫌な思いになったとのことも聞かれます。転居・転入届の際に自治会加入の案内に併せ、自治会長・事務局長の氏名、連絡先を記載した「転入者証」（仮称）を交付し、地域住民としての協働意識を醸成してはどうでしょうか。
5	自治会の担っている役割り、イベント等が乗っているパンフレットを作って未加入のお宅に配布する。
6	ボールペン・マウスパッド・スマホ等の充電コード
7	キャップなど
8	・区民課窓口で、自治会加入のお知らせを配布する際に、日常的に利用したり、目につきやすい物に印刷して配布する。ティッシュ、ペン、除菌シートなど。 ・転入してきた方に、冷蔵庫に貼れるマグネットを配布。校区や町内名が表記してあると意識しやすいのではないか。
9	何かシンボルがあるのは有効であると思うが、アンケートにも記載されていた通り自治会に入るメリットを明確にすることの方が重要だと思います。現在は人とのつながりがメリットといわれても響かない人が大勢を占めるかと思っています。つながることにより何がメリットなのか、もう少し落とし込んで説明できるようにしていく必要があるかと思いました。（←このようなものをチラシに整理して配布した方が効果がありそうな気がしました）
10	転居者が多いでしょうから、加入の話をしに行く際に、〇〇地区ご近所マップ（近所のハザードマップ、公園などお出かけ所、お食事処等）を作られては如何でしょうか。
11	資料2-1にある自治会加入啓発チラシ「ようこそ1町内へ」の記載内容が読み取れないが、加入促進グッズとして大いに活用したいので、熊本市民からもアイデアを募集するなどして知見をフル活用し、充実したチラシ作成に努めていただきたい。
12	ポケットティッシュやハンドタオルなど生活必需品

〔問2〕自治会加入促進事業の取組について御意見、御提案等がございましたら御記入をお願いします。

No.	意見内容
1	この件については、客観的に現状の分析をするところに着眼点を据えていかないと、せっかくの施策も効果を十分に上げられない可能性がある。そこで、資料2-2問1（減っている理由）に注目すると、最も多いのが「自治会に加入するメリットがない」、次に「役員になったら負担が大きい」とあり、それは多くの自治会で普段から住民に接している役員の率直な受け止め方だと思われる。そのことからすると、住民の心理面から、“自治会を損得勘定で判断している”“地域コミュニティの認識がない”などの問題点が上げられよう。 しかし、住民側のそれらの点を非難するばかりでは、自治会への加入が期待できないばかりか、肝心な自治会自体の存在意義を高めることにはつながらない。まして、自治会という存在一般のイメージをPR媒体で広めても、未加入者の関心は高まらず、また加入者も“加入していて良かった”という感興を覚えることは少ない。 そこで、まず“メリット問題”の解消を図るため、各自治会が“私たちは、こんなにメリットの多い活動をしていますよ”と訴求力の高い情報伝達をすべきだ。即ち、①各自治会固有の強みを洗い出し或いは強化し、②その強みを見える化する、③未加入者の個別事情にマッチした情報を伝える、というアプローチが必要だ。因みに、私の自治会では、別添のリーフレットを独自に作成し町内に配布した。このような形の取り組みが、自治会の存在意義を地域に浸透させ、自治会加入を増やすことにもつながると思う。
2	自治会の役員よりも隣保の方達にお誘いしていただけたらスムーズにいくのではないかと思います。近所の世話好きな方々のお力を借りたいです。
3	現在配布中の「つながる、安心。だから、町内自治会」パンフレットを見ただけでは、自治会に加入したくなるという加入メリットのインパクトが弱く、加入促進グッズとしての費用対効果は低い。 改善策：自治会加入者から加入して良かった、あるいは加入していて助かったなど、自治会へ加入したくなるような生の声をヒアリングし掲載していただけると活用し易いのではないのでしょうか。
4	1 見守り活動等の際に把握した空き地情報を共有し、新築や分譲等の工事状況を見極め、入居時には町内の民生委員児童委員と連携してなるべく早い時期に加入案内を行う。 2 情報伝達のツールである「回覧板」は、自治会未加入者は触れることがないため、地域情報が伝わらないことをアピールしていく。 3 防犯灯の維持管理や清潔なゴミ捨て場の管理など、地域住民の共助で成り立っていることをアピールしていく。
5	なし・・・自治会が無いところは、ゴミ収集しない 住民が困ることがなければつくらない!! 困ることがないから作らない
6	子供会と連携
7	・活動をわかりやすく、生活に（日々の）ごみは当番がいないので同じ人が清掃されます。 ・外灯の修理等
8	地域により差があり、住宅地では若い世代が増加しているが自治会加入率は低かったり、高齢化している地域では自治会活動に参加することが出来ないが、災害時や日常生活でも地域でのつながりや見守りが必要である。今後地域のつながりが希薄化する可能性は高く、自治会活動の内容や地域のつながり、地域共生社会の必要性を住民に周知していただくための取り組みは大事と考えます。
9	・若い世代は、スマホで情報を確認する時代なので、バーコードで読み込んだら自治会のことがわかるようにしてはどうか。 ・自治会に加入するメリットを4コマ漫画などで紹介し、スマホで、気軽に見れるようにする。 ・転入してきた方は住む場所のことがわかりにくいので、自治会に加入したらパスワードをもらえて、地域の情報を集めたサイトに入っていけたり、避難場所や防災に関する情報を確認できたり、コロナで飲食の持ち帰りや配達してるお店の情報や割引などお得な情報を得られる特典をつける。 ・「ささえりあ」のような愛称をつけて親しみを持ってもらう。

〔問2〕自治会加入促進事業の取組について御意見、御提案等がございましたら御記入をお願いします。

No.	意見内容
10	自治会会員さんのご近所つきあいを通してのコミュニケーションの中から自治会活動のメリットなどを未加入の方達へ伝えることも大事だと思いますし、市の広報誌等を通じての自治会加入のメリットを周知することも大事だと思います。その意味で加入促進啓発グッズの作製には賛成いたします。
11	熊本市として事業を行うのであれば、自治会が強固であって欲しい理由について整理しておいた方が良かったです。自治会からの要望で実施するだけでなく、市としても自治会が強固になることによるメリットがあると思います。そのメリットと、自治会のメリットがどのように連携することでどのような街づくりを目指しているか、などといった大枠が理解できるような資料があれば、自治会加入促進にも使用でき、効果もあるのではないのでしょうか。
12	可能であれば、地区の保健師さんなどと同行されてはどうでしょうか。全ての地区に担当の保健師が居られることを知らない方もおられるのではないかと思います。
13	自治会加入は、本人が地域との関わりをどのように感じているかにもあると思います。子どもの時に地域の中でどのような経験をしたか、どのような地域のあり様の中で育ったかにも根本的なとらえ方があるように思います。そのようなことから、子どもが地域の中で地域の人・物・文化と触れ合う機会を持つことが大事だと思います。今すぐという答えにはなっていませんが・・・
14	若い家庭や大きなマンションなどの住民が加入しないことが多いので、地域の自治会が地域の子供たちやお年寄りのために具体的にどんな活動をしているのか、もっと周知する必要があると思います。

〔問3〕現在、ご自身が加入されている自治会の活動等について、良いと思われる点、また改善したほうが良いと思われる点等、お気付きのことがございましたら御記入をお願いします。

No.	意見内容
1	現在、コロナ禍で回覧板が唯一の情報源となっている。ただ文章を閉じただけでなく、見てもらいたい情報や自治会ニュース「ごみステーションの状況」など工夫していただきたいと思う。
2	上に記したLINE公式アカウントや自治会リーフレットなどは、当自治会の活動を対外的にアピールできる手段となっている。 ただ改善すべき点として、当自治会の会費は平成21年度6,600円/年、その後令和3年度4,800円/年と低減化してきたが、これに公民館費1,200円/年が加わり、自治会員の負担は現時点でも6,000円/年である。この点について、年金生活者が一層増える時代を迎え、自治会公民館費を極力安くしなければならない。 そのため、自治会活動と公民館活動を抜本的に見直し再編成し、簡素効率化を進めより少ない予算で運用する工夫が必要だ。
3	なかなか役員のなり手がいないのでマンパワーがたりません。
4	・自分が加入している自治会の会費が妥当な額なのか把握したい。 改善策：熊本市内自治会の会費の実態公表。平均額。実態額（下限値～上限値の幅表示） ⇒加入をスムーズに進めるための根拠材料とする。できれば基準額の設定を要望する。 ・コロナ感染対応により顔を合わせての自治会活動が大幅に減少したため、会員間の交流がなく、隣保組長を含む役員の職務習熟度も進まない結果絆が弱まってきており、今後の自治会存続が懸念される。 改善策：アフターコロナを見据えた生活様式の中で、次の自治会を担う若い世代への加入を促進するために、自治会の魅力度・関心度を高めるための情報、防災・子育て情報、若者が中心となって活躍している自治会活動内容等の情報提供等をメール、掲示板等を活用して定期的に配信し、若い世代が気軽に情報を入手し、自治会を身近な存在として捉えられるようなツール作成を行政にお願いしたい。
5	【良い点】 1 コロナ禍の影響もありここ2年ほどは活動が自粛されていますが、「回覧板」による情報伝達は続いています。 2 民生委員との連携による緊急時安否確認や新規転入者の把握、自治会加入案内も実施しています。 【改善点】 3 参加者を募る「回覧板」による行事案内は、参加者の記載がない場合が多く、回覧終了後の状況でのフォロー（声かけ）が必要ではないか。 4 「役員のなり手不足」が要因と思われるが、役員の若返り化の推進が望めます。そのためには、日ごろから、若手世代との顔見知りを図り、「隣人のお助けマン」の養成が望めます。
6	公営住宅ですが、毎月の定期清掃、年に1回の住民総会参加を懇親会、子供（赤ちゃんからお年寄り）から全員出席します。開始する前に必ず自治会、子供会、公民館で敬老プレゼント配布（出席し、子供達から声かけなど）。ただ、現在の孤独死、対策の一環と発見、こえかけです。
7	募金がほぼ強制に近い。今のご時世に合わないのでは、やめた方がよい。
8	自治会長の人柄によるものと思われます。 総会に参加した時、報酬300,000円を360,000円にして欲しいと前会長と本人がいわれたのにはびっくりしました。 自治会に参加するように来られたので、参加したら会費は払ったのに回覧も何もいって来ないので、やめましたと聞きました。 25件位あって入会されてるのは6件程です。だんだん入会される方が減少して行っています。
9	・コロナ禍で2、3年は自治会活動の殆ど中止になっているが、夏祭りや抽選会など地域活動を計画的に実施されており、コミュニティーの場を提供されている所は良いと思う。 ・ささえりあの職員として圏域内の自治会活動に携わるようになり自治会の活動内容を知ることが出来たが、住民としてはどんな組織なのか、何をするのか、何のために会費を納めているのか、わからない方が多いのでは。自治会についての啓発チラシを回覧ではなく、一人一部ずつ配布し、周知する必要があると思う。

〔問3〕現在、ご自身が加入されている自治会の活動等について、良いと思われる点、また改善したほうが良いと思われる点等、お気付きのことがございましたら御記入をお願いします。

No.	意見内容
10	若葉小自治協議会では各種団体として、健軍商店街をメンバーに入れていただいています。 例会に出席して行事予定報告や連絡事項の確認などで意思疎通が来ています。 個々の自治会を見れば会長さんや役員さんはよく動かれていますが、その次を担う方たちの発掘が課題になっているか と思います。
11	コロナ禍で集まりがほとんどなくなってしまいましたが、様々な世代の人が集まれる催しがあるので、参加しやすい。また、 年に1回「防災の日」や「校区運動会」など、どこでも実施されていると思いますが、目的がはっきりした集まりがあると参 加しやすいと思います。 コロナ禍になるとオンラインが有効ですが、オンライン的な活動は全くできていないので改善点かと思っています。
12	コロナ禍のため交流が少なくなっているようです。グランドゴルフなどはマスクをすればリスクが少なくなるなどの周知を 行ってみては？
13	会長さんはじめ役員の方々の自治会運営に対する姿勢が、一住民にも伝わって参加者が増えていると思います。
14	若い家庭や大きなマンションなどの住民が加入しないことが多いので、地域の自治会が地域の子供たちやお年寄りのた めに具体的にどんな活動をしているのか、もっと周知する必要があると思います。

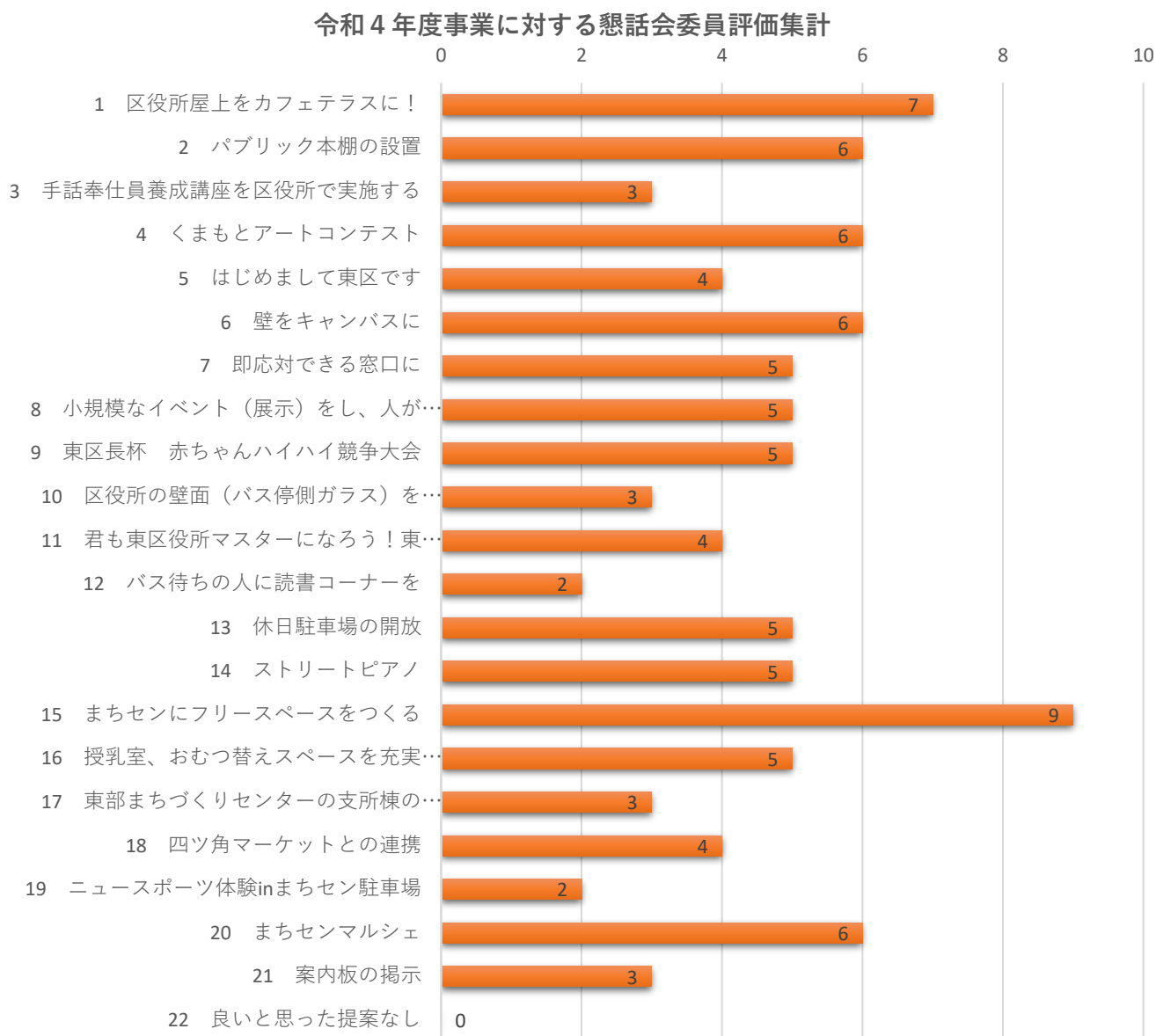
[問4] 東区役所が取り組もうとしている、「区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所に」という考え方に
対して、御意見がございましたら御記入をお願いします（忌憚のない御意見をお待ちしています）。
また、区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所にするためのアイデアや御提案がございましたら御記入を
お願いします。

No.	意見内容
1	区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所に、という視点は大変重要だと思う。とはいえ、従来の発想を下敷きにしたら、アイデアはいつまでも浮かんでこないだろう。ここで例えば、ヨーロッパの都市には、コンビニと郵便局が境界の分からない混然としたスペースで店舗を構成している所がある。これに倣い、区役所の一階をスペースリフレッシュしてコンビニを入れるとか、屋外にキッチンカーを入れて昼時には手軽なランチを楽しむ場所を作り出すとか、できないだろうか。“区役所やまちづくりセンターは公共施設だから民間の営利活動はできない”のではなく、行政財産と普通財産の区分をしっかりとすれば、不可能ではないと思う。
2	区役所はごちゃごちゃしているイメージです。 みんなで集まれるレンタルスペースがあったらと思います。 ランチやお茶できるおしゃれなところがあったら楽しいと思います。
3	要望：区役所やまちセンに気軽に長時間滞在していただくため、簡易な購買施設（小規模のコンビニ等）や簡易な飲食施設（喫茶・軽食等）の導入を検討してはいかがでしょうか。
4	1 東区各校区の地産地消の販売会や伝統行事の紹介、企業参加のイベントなどが企画できれば、住民参加の意向も高まるのではないのでしょうか。（ビブレス広場での催しを参考） 2 泉ヶ丘、若葉の住民（特に主婦、高齢者）にとって、東部、秋津の町センは、遠くて利用しづらいとの意識が強い。栄町の国有地（住宅跡地）に多目的利用の施設が望まれます。
5	「おしゃれな」カフェはいい考えだと思います。近隣にあまりそういう場所がないので。パブリック本棚も面白いです。主目的であるはずの行政手続きを「ついてに手続きもできる」という発想で構成し直すと市民にとっての馴染みややすさが増すかもしれません。
6	今の形でOK まちづくりセンターは全員いい人、なんでも相談できる。
7	年齢関係なく参加できるようなイベントを実施、あるいは企業と連携などをしてイベントを行う。
8	暗く混雑しているイメージが強い。実際熊本市役所は全体が暗く雰囲気も暗いと感じる。区役所やまちづくりセンターが開かれた場所にするために、各種イベントの開催や1階フロアーに休憩所や子どもの遊び場があると多世代が集えるイメージが出来るのでは。
9	・インスタ映えする壁画（トリックアートなど、見たり写真を撮ることが楽しいものを描く） ・子どもの頃から区役所やまちづくりセンターは、気軽に行ける場所との認識を持てるように、学校と連携し、子どもが立ち寄って楽しいイベントの開催や職場見学を行う。 ・立ち寄って、中で過ごせるスペースを作る。
10	区役所は用事があって訪れる場所-というイメージは確かに強いです。 物理的にもう少し敷地や建物が広ければ、展示やミニイベント等がやりやすいとは思いますが、これはしょうがないことでしょう。 職員の皆さんが提案されたアイディアはそれぞれに色々な気付きがあると思います。 出来ることから少しずつ実現に向けて進めて下さい。

[問4] 東区役所が取り組もうとしている、「区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所に」という考え方に
 対して、御意見がございましたら御記入をお願いします(忌憚のない御意見をお待ちしています)。
 また、区役所やまちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所にするためのアイデアや御提案がございましたら御記入を
 お願いします。

No.	意見内容
11	趣旨には大賛成です。が、目的を明確にしないとアイデアに示されているとおり何でもありな状態になり、結果「なぜ、この ような施策を実施したのか」という部分があいまいになりそうな気がします。 例えば、行政と地域住民の方との相互連携を深め協力してまちづくりを推進するためには、ただ単に住民がふらっと立ち 寄るだけでなく、目的を達成できるような仕組みを取り入れる必要があると思います。(職員と話す場を設ける、訪ねてき た方の意見箱を設ける等) 例えば、No.5やNo.15などは東区に慣れていない人や暇な人が本当に集まる場所を提供する形になると市民の安心感 の醸成、有事の際の連絡・基点としての効能、世代間の交流など、とても有効に機能すると思いますが、ただスペースを 作ってもおそらく企画倒れになる可能性が高いと思います。 休日の有効スペースの活用はとても面白いと思います(No.9、No.13、No.19等)。無駄スペースの有効活用の他に、そ の場集まるということは場所を知ってもらうことにもつながるので、交流以外にもメリットがあるように思います。 No.6やNo.10等は、壁面という現在活用されていぬ箇所の有効活用になり、景観の向上にもつながり、特にNo.6は上 手くいくと「まちづくり」に直結する(展開できる)内容になる気がしますので、このような企画はとても意味があるような気 がします(住民参加のまちづくり) 気軽に立ち寄れる場所にするという意味では、個人的には、No.14のストリートピアノが秀逸だと思いました。ピアノを弾き たくて足を運ぶ人、聞きたくて足を運ぶ人など、自然に人が集まることが期待でき、なによりも音楽が流れていることで提 案内容にも記載されているとおりイライラの防止に活用できるかと思います。 個人的な案としては、No.11のアイデアに近いですが、例えばまちセンなどだけではなく、防災的に知っておいてもらいた い箇所、地域の名所、東区のまちづくりなどを考える上で知ってほしい場所などを設定し、フォトゲイニングの要領 でポイントを回れるように(期間は何時でもOK)しておくと、まちづくりや防災、健康維持等に役に立つのではと思いま した。その結果を区役所などに持ち込むことで表彰される(←何らかのものがあつた方がよいのかもかもしれませんが。。。例え ばここに企業の協力をもらうなども良いと思います)などの仕掛けを作るのはいかがでしょう。
12	我が家の出来事(的な)写真や、子供が描いた絵、手作り小物など虜張らないで展示できる空間を作られては如何で しょうか。(期間も1~2週間で入れ替える)
13	公民館に対する意見でもよろしいでしょうか。 現在、公民館の会議室等を使用する場合、自治会・社協・・・などの団体のみ減免になっています。新しい地域で活動しよ うとする団体は有料になります。 旧態然とした制度の中で、新しい物を排除しているように感じてしまいます。 では、申請できるのか、どうすれば良いのか、全くわかりません。 地域の活力を応援していくことを具現化してほしいです。
14	若い家庭や大きなマンションなどの住民が加入しないことが多いので、地域の自治会が地域の子供たちやお年寄りのた めに具体的にどんな活動をしているのか、もっと周知する必要があると思います。

[問5]御覧いただいた【資料3-2】中、区役所・まちづくりセンターを気軽に立ち寄れる場所へするための提案について、良いと思った提案や推進してほしい提案がありましたら選択☑してください。(複数選択可)



●最も関心を持っていた事業●

- | | | |
|---|----|------------------|
| 1 | 9票 | まちセンにフリースペースをつくる |
| 2 | 7票 | 区役所屋上をカフェテラスに！ |
| 3 | 6票 | パブリック本棚の設置 |
| 3 | 6票 | くまもとアートコンテスト |
| 3 | 6票 | 壁をキャンバスに |
| 3 | 6票 | まちセンマルシェ |